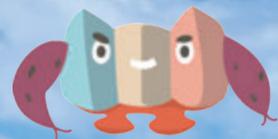


この夏、さらに注目!

桜島・錦江湾ジオパーク



始良市 モマール



鹿児島市 タロック



垂水市 ルミティ

今年2月に認定エリアが拡大し、ますます魅力的になった桜島・錦江湾ジオパーク。ジオパークの特徴や、夏のお出掛けにもぴったりのスポットなどを紹介します。

【世界遺産・ジオパーク推進課

☎216-1313 FAX216-1320】

「ジオパーク」とは

ジオパークとは、「地球・大地(ジオ)と「公園(パーク)」を組み合わせた言葉で、地球を学び、丸ごと楽しむことができる場所のことです。

「桜島・錦江湾ジオパーク」は、2013年9月に日本ジオパークに認定され、今年2月に本市全域、始良市、垂水市にエリアが広がりました。



錦江湾と桜島の成り立ちと恵み

錦江湾奥部の成り立ちと恵み

約2万9千年前に、現在の錦江湾奥部で巨大噴火が起こり、地下のマグマが噴出されて空洞になったため、地面が陥没して「始良カルデラ」ができました。そこに海水が入り込み、錦江湾の奥部となりました。

本市には、このような巨大噴火のときに噴出された火砕流堆積物が固まってできた溶結凝灰岩が数多くあり、昔からこの岩石を石材として石垣や石橋に使うなど、石の文化が発展してきました。

桜島の成り立ちと恵み

約2万6千年前に、始良カルデラの南端で起きた噴火でまずは北岳ができ、今から5千年前まで活動しました。次第に火口の位置がずれて南岳ができ、約4500年前から現在まで活動が続いています。

桜島と波静かな錦江湾の織りなす美しく雄大な景観は国内外の人々に愛され、また、温泉が暮らしに身近な存在として溶け込んでいるなど、世界的に珍しい「活火山との共生」が実現しています。



桜島・錦江湾ジオパークの認定エリア



赤枠…拡大前のエリア
青枠…拡大後のエリア



桜島の風土で育つ桜島大根や桜島小みかん



多様な生き物が暮らす重富海岸の干潟



野生のイルカが見られる錦江湾



1779年の安永噴火でできた新島



石の文化を代表する石橋記念公園に移設された西田橋



1914年の大正噴火で1日のうちに2mも埋もれた黒神埋没鳥居



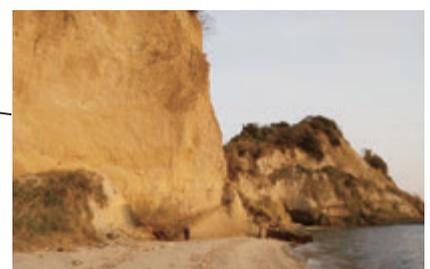
シラスが原料のブロックを使用している市電の軌道敷緑化の基盤



大正溶岩と昭和溶岩、その上の植生の違いが見られる有村溶岩展望所



溶結凝灰岩に彫られた清泉寺の磨崖仏群



始良カルデラから噴き出したシラスの崖が見られるまさかり海岸